

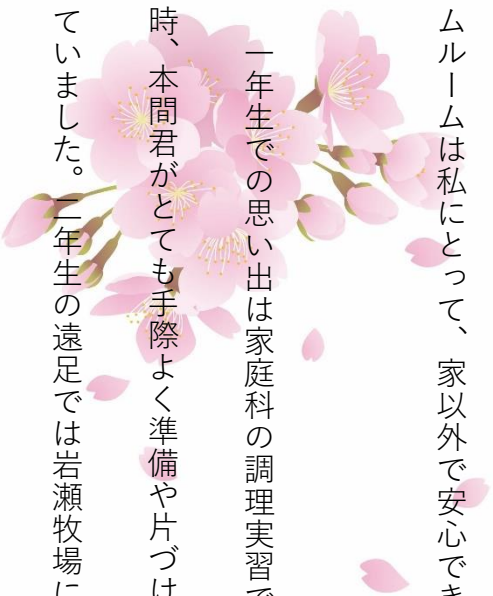
卒業生代表の言葉

私たちは、聖光学院高等学校通信制課程での学びを終え、卒業の日を迎えることができませんでした。今日、この日を迎えられてとてもうれしく思います。

私は中学二年の冬から学校に行けなくなりました。なんとか、聖光学院の全日制に入学することができましたが、わずか一週間でまた登校できなくなってしまいました。何度も「学校に行かねば」と思いましたが、どうしても足が動かず、次第に人と会うことも話すことも怖くなってしまいました。そんな自分に失望し、しばらくひきこもっていましたが、いろいろな人の助けがあって、翌年この通信制課程に入りなおすことができました。

高校生活でクラスのみんなと言葉を交わすことはあまりありませんでしたが、ホームルームは私にとって、家以外で安心できる場所の一つになりました。

一年生での思い出は家庭科の調理実習です。ハンバーグをつくったのですが、その時、本間君がとても手際よく準備や片づけをされていて、よく気がきく人だなと感心していました。二年生の遠足では岩瀬牧場に行き、バーベキューをしました。私は朝倉



君といっしょに肉を焼きました。煙にまみれながら、黙々と焼いては食べ焼いては食べ、でしたね。

特に印象に残っているのは三年生の体育です。先生方もみんなで開催したバドミントン大会はとても盛り上がりました。私は辻先生に逆転で負けて、惜しくも三位でしたが、その辻先生を破って優勝したのは渡辺君でした。決勝戦は見ているほうも夢中でした。この日は久々の運動で、次の日は筋肉痛でした。

ほかにもアクアマリン福島に行ったことや、四季の里を歩いたことなど忘れられない思い出です。今になって、もっとみんなと話をしていればよかったと少し後悔もしています。

全日制とは違って、たくさん自由な時間があり、私はその時間を利用して多くの本を読むことができました。特に興味を持ったのは心理学の分野です。自分を見つめなおしたり、またほかの人の行動や考え方を理解したりするヒントになりました。気が付くと、怖いと思っていた人間というものに興味を持つようになり、心理学をもっと深く学びたいと思うようになりました。大学進学という目標を持ってから、自分の気持ちも外へと向くようになりました。

受験勉強では、苦手な科目は学校で先生が、時に優しく、時に厳しく教えてくださいました。知らなかったことを学び、新しい知識が増えていくことが純粹に楽しく、

自分のペースで勉強ができたのも私には合っていたと思います。また苦しいこともありましたが、そのすべてが血となり、肉となり、私の中で大きなものとなりました。

先生方の指導のおかげもあって、第一志望ではないものの、心理学部のある大学に合格することができました。

聖書には「狭き門から入りなさい。」という言葉があります。これは、人生において人通りの多い派手な道を歩くのではなく、ひっそりとしたあまり周りから見向きもされないような道にこそ真理があるという意味です。

振り返ってみると、自らの意思にかかわらず、どちらかといえばマイナーな道を選んできた自分に、家族や先生方はいつも手を差し伸べてくださいました。大勢の人と同じように高校生活を送っていたら、気付かないことがたくさんありました。人から見向きもされない人、ひそかに苦しんでいる人、そういう人に今度は自分が手を差し伸べられるようになりたいと思います。そのために大学生活で多くの人とかかわりながら、心理学を学びそして行動できる力を身につけていきたいです。

通信制課程は今年で幕を閉じます。それは私にとって実家がなくなるような寂しさを感じます。しかし、ここで、このタイミングで、この五人の仲間と、一緒に学べたことは本当に幸運でした。これから私たちはそれぞれの道に進みます。それぞれの進

路はバラバラですが、この高校で学び経験したことは今後の人生の中で確かな礎となると思います。

私たちが今日無事卒業できるのは、両親、先生方のおかげだと思います。本当にお世話になりました。改めて、皆様に感謝を申し上げます。

二〇二〇年 三月 八日

聖光学院高等学校 通信制課程 卒業生代表 舟山 碧